

## 第2回姫川水系流域委員会 議事要旨

日時：令和2年11月18日

場所：糸魚川市民会館

### 【姫川水系河川整備計画の点検について】

#### <総括>

- 河川整備計画の事業は、この5年間で大きな問題なく進められている。したがって計画を特に変更することなく、引き続き河川整備計画を実施していくことを当委員会の結論とする。

#### <意見>

- 点検資料の全般的な意見として、目標流量の数値や白濁が長期間生じた際の時系列の調査結果の数値を資料の中に盛り込むと良いと思う。
- 昨年発生した姫川の白濁による、水質や生物（魚）への影響等について市民からの関心が高い。
- 流域治水について、今後、取り組みを図っていくということだが、流域治水を行っていく上では、住民理解を得る必要がある。まずは関係者が集まり、問題の把握と、できることの確認をすることが第一歩である。
- 急流河川対策などのハード対策の事業を着実に進めていくとともに、災害時の対応としてタイムラインといったソフト対策についても力を入れ、両者を一体的に取り組んでもらいたい。
- 総合土砂管理について、松本砂防事務所(根知川も含めた)、新潟県、長野県を含めた意見交換を実施し、課題の把握を行って欲しい。
- 河道のモニタリングとして、色々な方法で河床を計測している事例が紹介されていたが、出水規模でどれくらい掘れたなどの傾向を分析し、その結果をフィードバックするなどの取り組みが必要。

## 【事業再評価について】

### <総括>

- 当流域委員会の審議の結果として、姫川直轄河川改修事業の事業再評価については事業継続を結論とする。

### <意見>

- 費用対効果分析について、氾濫シミュレーション結果は被害軽減期待額に非常に効いてくることから、シミュレーションと実洪水の正確性はある程度重要である。
- 洪水の激甚化や気候変動に伴う流量の増大について、今後姫川でも考慮していく必要があると考えられる。全国での整理があった後、姫川でも実施ということになると考えられる。
- 環境負荷軽減というと、できるだけ河川を自然のまま保つイメージを感じる方もいるため、ICT の取り組みを意味するなら二酸化炭素の排出量削減と表現したほうが良い。
- 平成7年洪水の被害の大きさや、流域内の新幹線や国道のインフラ整備状況から B/C については妥当である。環境への配慮については CVM といった方法により、整備により動植物へ与える効果(便益)についても評価することも考えたら良いと思われる。

以 上